

資料館だより

発行所

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 0423-96-2909
FAX 0423-96-2981
郵便振込 東京-3-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

『母娘遍路像』 資料館で開眼式

「いわれなき偏見と差別をなくそう」との願いをこめた母娘遍路像の開眼式が一月二十日、高松宮記念ハンセン病資料館において行われました。

当日は藤楓協会、資料館

全生園施設、全患協、自治

会、真言宗大師講、像制作

関係者等五十数人が出席、

真言宗智山派東京北部教区

九カ寺の僧侶による開眼法

要の後、式辞、祝辞、感謝

状贈呈、祝電披露等が行わ

れました。会場には真言宗

智山派総本山智積院、大本

山川崎大師、大本山成田山

新勝寺、世界ハンセン病友

の会等よりの生花が飾られ

華やかなムードに包まれま

した。次に母娘遍路像建立

の全てを語る式辞を紹介し

ます。

式辞

子遍路おくれけり

お遍路は信仰の旅である

と同時に職を奪われ、故郷

を追われた人々の生活を支

える旅でもありました。

地元ではお遍路を温かく

持成すへお接待の風習が

あり、病者たちはこれに残

る命の糧を求めました。不

自由な躰で八十八ヶ所札所

を巡る旅は決してた易いこ

とではなく、道半ば無念の

死を遂げた人々の遍路墓に

は、今もその悲しい姿をと

どめております。

わが國のハンセン病者た

ちが辿ってきた、こうした

苦難の歴史を世に遺し、二

度と云われなき差別と偏見

に泣く人々を出さぬように

との願いから、平成三年、

全生園真言宗

大師講では遍

路像の建立を

発願、全国の

方々に呼びか

け津々浦々よ

り、心温まる

激励の言葉や

浄財を頂き、

多くの善意と

信頼によって

完成しました。

昨秋完成し

た遍路像は一

旦は四国・善

たが、地元療養所の人々の

希望もあつて当高松宮記念

ハンセン病資料館に移転、

展示させて戴くことになり

ました。

こうした経緯を通して母

娘遍路像は、国内にはまだ

まだ癒し難い心のキズを庇

いながら生きる多くの病者

のいることを証明しており

ます。

母娘遍路像が当資料館を

訪れた参観者を通して偏見

のない明るい社会を実現す

る記念碑として訴えつづけ

て行くよう祈るものであり

ます。

母娘遍路像建立委員会

代表 三輪照峰

吉田竹蔵

花見のお客さん

資料館へもどうぞ

園内多摩研通りの桜は近

郊ではちよつとした名所で

毎年四月は外部よりの花見

客が多くなります。今年

は花見と同時に目の前の資料

館へもどうぞお立寄り下さい。

全国各地よりの来館 一日平均44人

四月に入るとともに樹木の緑も色を増し、すつかり春めいて参りました。

一月は開館日数(16日)が少なく、寒さもあつてか来館者数も二八八(一日平均二四人)にとど

まりましたが、その後は徐々に増え、開館以来二月末までの状況は、開館日数一七三日、来館者数七五七七人(一日平均四四人)となっており

団体来館者数は、九九団体三〇五五人で、全来館者数の四割強となっており、この状況は当分つづくものと思われま

韓国、台湾の方も来ております。

「来館者の声」も一般三三二、児童一五三、計四八五通が寄せられ、関心の深さを示しております。

十二月二十日以降に来館された団体は、白梅学園短期大学、秩父看護学校、白百合中学校、ともしび会おしどり観光、上智大学、天理大学成人会、聖マリア修道女会、台湾省政府衛生処、曹洞宗宗務庁、朝日厚生文化事業団、大阪ハンセン病友の会、立教大学、ガ



一階ロビーで医学解説を読む来館者

ン研究会看護学校、東京病院看護学校、駿河療養所准

ハンセン病に関する 公開セミナーの開催

平成六年三月二十六日の十三時三十分より二時間にわたり、成田稔多磨全生園名誉園長(当資料館運営委員長)を講師として、ハンセン病についての公開セミナーが開催されました。

参加者は、予約、当日の申し込みを含めて五九人でした。内容は男性二五人、女性三四人ですが、

この中には職員と職員OB十四人、入園者十三人も含まれております。

内容は、ハンセン病の歴史をさかのぼって、わが国のハンセン病対策の基本となった「絶対隔離」の背景を考え、さらに「らい予防法」にも言及したものでした。

看護学校などでした。

「らい予防法」については、改正論議がやかましい折りから、セミナー参加者も強い関心を寄せていました。資料館運営委員会としては、同じようなセミナーの企画を、今後とも重ねてゆきたいと考えています。

全生園、復生病院 「戦前の写真展」

資料館では全生園の戦前の写真展(4頁参照)を開催します。なお、併せて山復生病院の開院以来の生活、作業、娯楽などの写真も展示します。期日は4月20日より5月19日までです。

資料館開館一周年記念 シンポジウム

「らい予防法」改正問題をめぐって

資料館運営委員会では、

高松宮記念ハンセン病資料館の開館一周年を記念して各方面で論議を呼んでいる「らい予防法」改正問題をめぐってのシンポジウムを計画しました。

期日 6月25日・13時30分
場所 全生園公会堂

講師は藤楓協会、所長連盟全患協、その他一人を予定しております。大勢の皆様のご来場をお願いします。

岡村大三氏の 指笛公演

資料館の開館一周年を祝して、指笛の第一人者、岡村大三氏が慰問公演をしてくることにになりました。

期日は6月25日午後一時より全生園コミュニティセンターで、シンポジウム開催までの三十分間です。

岡村先生は八十才ですが元気で各地で公演しており、クラシックですが、民謡、童謡などのレパートリーも



来館者の声

見る物、見る物に
歴史を感じる

会社員 56才 男性

ハンセン病の病理について
もっと詳しい解説があれば
ばよと感じた。病気に
いての正確な理解があれば、
ハンセン病についての故な
い偏見がもっと少なくなる
筈である。この点を啓蒙す
る解説板資料があればと思
った。

学生 18才 女性

不自由な身体ながら、と
ても立派な不自由だと思え
ない程の絵や陶芸と、書物
を見て、素晴らしいと思う
と共に、自分ももっと頑張
らなくてはという気になり
ました。とてもすてきでし
た。

看護婦 53才 女性

病舎、衣類、食器等を見
ると胸が痛くなる。昔とは
いえ、患者さんには辛く寂
しい思い…。今こうして展

示することで、痛みを心に
刻んでおくことの重要性と
必要性を確信する。

学生 19才 女性

このような事があつたこ
とは、恐らく世の中の人々
の半数以上は知らない様な
気がします。もっと沢山の

前略 去る2月24日、私

共が資料館を訪れた際には
なにかと、御配慮、御指導
いただき誠に有難うござい
ました。ハンセン病の患者
さんたちが生活してきた様
子、その当時の着物、使っ
ていた本や道具などが展示
されており、この二年間、
授業などで話を聴いたり、
勉強してきましたことがすべ
そろつていました。

いろいろな資料や展示物
ビデオなど、私たちはハン

人がこの悲惨で不当な事実
を知るべきだし、それに対
して自分で考えることが必
要だと感じました。又、こ
の資料館は大変美しく、細
かな配慮が行き届いている
と感じ、また来ようと思い
ました。

無職 42才 女性

いろんな事件が起こり、
歴史はどんどん変わつて来
たのが良くわかりました。
もっと字が大きいといいの
ですが……。

主婦 37才 女性

自分になりたくてなった
訳じゃないのに、本当に心
から可哀相に思う。心が痛
む。

無職 65才 女性

今は良くなる方が多い様
でよかったです思います。献
身的に尽くして来られた
方々に感動致しました。

学生 20才 男性

ハンセン病患者の生活が、
話やTVで聞いたものより
さらによく見えるようにな
な気がします。

セン病患者さんたちと接し
たり、実習させていただい
たため、興味深く見学する
ことができました。
今は何もなかったかの様

興味深く見学

これからの看護に
活したい

に生活している患者さんで
すが、資料館を見学したこ
とにより、患者さんの心の
奥深くの叫びを聴いたよう

平成6年2月28日

資料館館長様

国立駿河療養所附属

准看護学校 40期生一同

った。ほぼ根治可能な現在
においても、未だ行動の自
由を制限された収容所のあ
ることが遺憾である。所内
で頑張っていらいっしやる
方々を応援いたします。

学生 18才 女性

初めは趣味だけが入った
けど、心にグツトくるもの
があつて、見る物、見る物
に歴史を感じました。ハン
セン病を知っていると
も、たいした知識ではな
かつたので、写真などを見
て本当にこんなことがあつ
たんだなあーと考えさせら
れるものがありました。も
う過去の病気になるうとし
ていますが、この事実だけ
はずうつと伝えてほしい。

自営業 45才 男性

熊本のリデル・ライト病
院の近くに昭和30年頃住ん
でいました。黒髪小に通学
していたので、遠い記憶に
「ハンセン病の子が来てい
るので給食がなくなつた」
ということがありました。
それがここにきて記録をみ
てびっくりしました。

全生園・昔むかし

一万二千枚の写真

全生園には創立当時から戦後までの乾板が沢山あり最近では医局図書館に保存されていましたが、同館の老朽化もひどいため埃りを払い、分類を決め、資料館に保管を転換しました。

捨てたと同然の状態で見積もっても一万二千枚、段ボール箱にして三十一個に達しました。

そのうち、約三分の一は誰でも、入所の際に撮られた覚えのある筈の「入所患者」の写真で、プライバシーの問題もあり、ガムテープでまた封じ込んでしまいました。三分の一は「患者研究」用であり、各種病体や研究、解剖、顕微鏡による細菌等、貴重な写真ばかりです。

あとは「皇室関係」をはじめ「慰問」「患者集り」「行

患者作業のほか、大風子の注射場や外科場、お会式、祭礼、盆踊り、仮装大会、近隣にも出品を求めている農産物品評会や林園長の餅搗き等、珍しいものはじめて見るものも少なくなく、いちいちあげたらきりがありません。

「患者研究」用を含め、差し当って三百枚、善意のボランティアに焼付けを依頼しており、さらにその中から四、五十枚を引き伸ばし、オープン一周年記念として研修展示室で公開する予定です。

前略——二月三日、リデルさんの命日に「リデル・ライト両女史記念館」が開館致しましたのでご案内致します。資料館の方に保存して頂ければ幸いです。

又、先月は県立美術館において、舟越保武展が開催されておりまして、初めて「病醜のダミアン」像と対

面して参りました。「菊池野」3月号に感想文を掲載しますのでご高覧下さい。

資料館日記

▽12月5日、めぐみ新聞第三一〇号に「高松宮記念ハンセン病資料館」が大きく紹介される。

▽12月21日、埼玉近代美術館より借用展示されていた「病醜のダミアン」像を返送する。

▽12月25日、「母娘遍路像」資料館へ移設される。

▽資料館だより・第二号(二千部)発行。

▽1月8日、資料館仕事始め。

▽1月20日、母娘遍路像の開眼式典を行う。

「の姿勢で見られ全く取り上げられませんでした。ある意味では不幸中の幸いでした。やはり、この像はハンセン病資料館や、ハワイのダミアン美術館に展示されるのが、ダミアン自身にとっても安住の場所ではないでしょうか。——

二月八日

▽2月5日、資料館門柱が完成する。

▽2月8日、27日、阿部正英第三回パステル画展を開催。記帳者が二百人を超え、看護婦OBも期間中大勢来館し賑わう。

▽2月10日、第八回資料館運営委員会を開く。

▽2月15日、早くも四月のお花見時に「資料館を見学し、花見をしたい」との団体申し込みが二、三くる。

◎あとがき

1月は来館者の出足がわるく、館員五人にお客が一人という日もあったが、2月12日の大雪の日に来館者0を記録した。

2月24日は一八〇人と二〇人の二つの看護学校生など二三四人が来館。四班に分れてビデオや展示品を見るなど、てんでこまいであった。しかし館員は「どんなに忙しくともお客さんは多い方がよい」と言っている。(佐川)

来 信
ダミアン像と
対面
菊池 太田明